

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名 いろいろな読み方で伝記を読み、自分の生き方について考えよう

2 単元目標

◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。

【思考力、判断力、表現力等C(1)カ】

○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

【思考力、判断力、表現力等C(1)オ】

○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができる。

【知識及び技能(3)オ】

○偉人の生き方や考え方をとらえ、友達と交流することを通して、自分の生き方について考える。

【学びに向かう力、人間性等】

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付いている。 (3)オ	・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 (C(1)カ)	・偉人の生き方や考え方をとらえ、友達と交流することを通して、自分の生き方について考えようとしている。

4 単元について

(1) 本単元で行う言語活動と扱う学習材について

本単元では、学習指導要領「読むこと」における言語活動例「イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動」を受けて、偉人の人生のエピソードから自分の生き方を考える活動を設定する。

児童は、本単元で初めて伝記を読む。伝記は、歴史に残るような優れた人物の人生や功績を書き綴ったものである。文学的な描写と説明的な描写で構成されており、出来事やそれに対する人物の行動、会話などの事実が書かれている。エピソードや人物の言動に対する評価など、筆者の考えに着目し、客観的に人物を理解することができる。加えて、心情などの文学的描写を総合し、人物の生き方や考え方にふれ、人物像を思い描くことができ、人物の生き方や考え方をより深く理解することができるのが、伝記の魅力である。そのため、「伝記」との出会いを大切にしていきたい。

まず、教師が偉人を一人取り上げてエピソードを紹介する。この時に、伝記には、「すぐれたことを成し遂げた人の人生の出来事や、その人の考えが書かれている」ことをおさえる。そのエピソード

ードから、「この人はどんな人か」「自分の人生に取り入れたいことは何か」を発表し、本単元の学習に興味をもてるようにする。伝記に書かれている偉人はたくさんいることや、一人の偉人に対して複数の作者が伝記を書いていることも紹介し、実際に伝記の本の棚を見せることで、さらに興味をもてるようにする。

本単元では、最初に教科書に書かれている「やなせたかし」について読んでいく。教科書に書かれているエピソードについて読むが、さらに詳しくエピソードを知るために、教科書以外の伝記や自伝を読んで比べていく。ここでは、複数の文献を読むことで、同じエピソードでも書かれ方が違っていたり、詳細に書かれていたりするため、より深くエピソードを理解できることを学習する。やなせたかしについて書かれている伝記は複数あり、自伝も多く執筆している。伝記と同じエピソードを自分の言葉で書いているため、やなせたかしの心情を読み取りやすい。教科書と伝記、または教科書と自伝を比べて読むことで、やなせたかしの人物像をより深く考えることができる。人物像を深く考える中で、自分の生き方に取り入れたいことがより明確になると考える。そしてその後、他の偉人の伝記を読んでいく。他の偉人の伝記を読むときは、一冊の伝記をじっくりと読んだり、一人の偉人に対して複数の文献を読んだり、複数の偉人の文献を読んだりして、偉人の人生について知っていく。まだ10歳、11歳の児童にとって、「自分の生き方」を考えることは難しい。「こういう考え方は素敵だな。」「自分ではできないことがあるとあきらめてしまうから、あきらめそうになったらこの言葉を思い出したい。」というように、いろいろな読み方で伝記を読む中で、自分の生き方に取り入れたいことを考えられるように促したい。

これまで、「なまえつけてよ」や「たずねびと」の学習で、登場人物の心情や人物像を考える学習をしてきた。登場人物同士の関わりを読んだり、物語の全体像から考えたことを伝え合ったりする中で、自分の考えを広げる活動を行ってきた。場面を整理し、出来事を確かめ、そこで登場人物はどう思ったのかを考えていく流れは、本単元でも同じである。これまでの学習を生かしていきたい。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元を通して、偉人の生き方について友達と意見や感想を共有し、自分の考えを広げると共に自分の生き方を考えていく力を身に付けていきたい。そのために、二つの活動を行っていく。

まず、やなせたかしについて読んでいくときに、比べ読みを行う。やなせたかしについて伝記を書いている作者は複数いる。それぞれの作者で同じ出来事を取り上げているが視点が違う。ある出来事でも、やなせたかしの心情を交えて書かれているものもあれば、事実のみが書かれているものもある。比べ読みを行うことで、出来事をより深く知ることができ、やなせたかしの人物像をより理解できると考える。そして、やなせたかしは自伝も多く出版している。本学級の児童は、比べ読みをすることが初めてだ。エピソードをより詳しく知ることができると実感するために、一つのエピソードについて教科書と伝記で比べて読む活動を一緒に行っていく。その後、自分で選んだエピソードについて個人で比べ読みをし、やなせたかしが「どんな人物なのか」を考えていく。最後に、違うエピソードを選んだ人同士で交流をして、グループで「やなせたかしはこんな人」を考えていく。一つの伝記のエピソードしか読まない、その人のある一部分しか読むことができないが、交流を通して人物の生き方や考え方を多面的に捉えることは、その人物をより深く理解するこ

とつながっていく。そのために、複数の文献から、物事を多面的に捉え理解する力を身に付けさせていきたい。

次に、いろいろな読み方で伝記を読むよさを学ばせたい。やなせたかしについて読んだ後は、他の偉人の伝記を読み、自分の生き方について考えていく。やなせたかしで学んだ比べ読みをしたり、一冊の本をじっくりと読んだり、複数の偉人の生き方を読んだりしてもよい。本学級の実態を踏まえて、伝記、自伝ともに漫画や絵本でもよいことにする。児童が自分の生き方を考えることができるように、伝記をいろいろな読み方で読む読書活動を促すことで、児童自らが生き方についての考えをもったり広げたりすることができるようにしていきたい。

(3) 単元の目標を達成するための手立て

本単元で扱う「いろいろな読み方で伝記を読み、自分の生き方を考えよう」という題材では、やなせたかしや、他の偉人の生き方について追究することが、自分の生き方を考えていくことにつながると考えられる。単元の目標を達成するための手立てとして、次の三つを考えた。

一つ目は、語彙を豊かにするための手立てである。本学級では、言葉にたくさん触れることができるように、「My 漢字辞典」や「今日のことわざ・四字熟語」、「今週の漢字クイズ」に取り組んでいる。「My 漢字辞典」では、一つの漢字を取り上げ、その漢字が使われている言葉をたくさんまとめていくものである。その漢字の部首や意味調べ、同音同訓集め、その漢字を使ったことわざや四字熟語などの言葉集めをしてまとめていく。低学年で習う漢字でも、その漢字を使った全ての言葉を知っている児童は少なかったため、今後もこの活動を続けて、語彙を増やしていく。「今日のことわざ・四字熟語」や「今週の漢字クイズ」においても、言葉に触れるきっかけになっている児童が見られる。今後もこれらの活動を継続していき、多くの言葉に触れさせていきたい。

二つ目は、人物に着目できるようにするための手立てである。これまで、教科書で物語文や説明文を読んできた。作者が誰なのかを知るだけでもよいが、他にどのような作品を書いている人なのか、現在生きている人なのかなど、その人がどんな人なのかを知ると、作品により親近感が湧くのではないかと考えた。そこで教室の壁面に、これまで教科書に出てきた作者を写真とともに掲示した。教科書の作品名と他の作品名、前学年までの教科書に載っていた作品名、作者の言葉、何年から何年まで生きていた人なのかなど、一枚にまとめている。掲示を始めてから、国語の学習で新しい単元に入ると、どの人物なのかを確認する児童が数名いた。また、図書室で本を読むときに、掲示で見た作者に反応している児童もいた。本単元では、偉人の生き方を読み解いていくため、「人物」に興味をもってもらいたいという思いでこの取り組みを始めた。今後もその都度「人物」に着目できるようにしていく。

三つ目は、並行読書を充実させることだ。伝記や自伝を早い段階から学級に置いておき、親しめるようにする。どの児童にも伝記に親しむことができるように、文字の多い本ばかりではなく、絵や写真が多いものや、偉人辞典等、様々な本を用意する必要があると考えた。伝記コーナーを作った当初は、伝記を手取る児童がほとんどいなかった。置いてあることに気付いた児童はいるが、実際に手に取った児童はいなかったことから、「伝記に触れさせる」「伝記との出会い」を工夫する必要があると考えた。そこで、教師が、伝記コーナーの本を紹介したり、ブックトークを行ったりして、伝記に親しむことができる手立てをとっていく。

5 指導計画（10 時間扱い）

時	学習内容	指導上の留意点（○）と評価（◇）
1	○教師が偉人を紹介し、伝記を通して考えた自分の生き方について伝え、それを聞いて関心をもつ。 教師が紹介したものを聞いて学習活動について理解し、学習計画を立てる。 いろいろな読み方で伝記を読み、自分の生き方について考えよう。 ○教科書P 172、173を読んで、伝記について確認する。 ・伝記にはどのようなことが書かれているか。 ○アンパンマンマーチの一部分を提示し、 ①どんな人が書いたのか。 ②この歌は誰に向けていると思うか。 ③どんなイメージがあるか を話し合う。 ・『<u>なんのためにうまれて なにををしていきるのか</u>』 ・『<u>こたえられないなんて そんなのはいやだ</u>』 ・「苦しいことを経験した人が書いたのかな。」 ・「何かに悩んでいる人に向けた歌かな。」 ・「頑張ろうとする歌かな。」	○伝記を読み、その伝記に書かれている人物の生き方や出来事を読んで、「自分の生き方を考える」活動をするという、学習の見通しがもてるようにする。児童が学習の見通しをもちやすくなるよう、今後使うワークシートと同じもので、教師が偉人を紹介する。 ○伝記を初めて扱うので、伝記にはどのようなことが書かれているのかをおさえる。 ○この後、やなせたかしの生き方や考え方を読んでいくきっかけとなるため、また、やなせたかしについて着目しやすくするために、アンパンマンマーチだということは伏せて提示する。伏せることで、この言葉から多くのことを感じるようにする。 ◇偉人の生き方や考え方を捉え、偉人の生き方を読んで、自分の生き方を考えるという学習の見通しをもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】
2	○全文を通読して感想を書く。 ・「94歳まで作家を続けられたのはどうしてかな。」 ・「アンパンマンは、最初は大人からの評判が悪かったなんて知らなかった。」 ・「親戚の家に預けられたり、弟が早くに戦争で亡くなってしまったり、壮絶な人生だったんだな。やなせたかしの人生について詳しく知りたいな。」 ○全体で交流する。	○心に残ったこと、印象に残ったエピソードなど、感想を書くことができるようワークシートを用意する。 ○考えが思い浮かばない児童もいるため、友達の感想を聞いて、自分の感想に近い

	○やなせたかしは、伝記や自伝が多く書かれていることを知る。	ものがあったらワークシートに書くよう助言する。 ○やなせたかしは伝記や自伝が多く書かれていることを紹介する。伝記については、作者が一人ではないことを知り、比べ読みの学習につなげる。教室の棚に並べ、今後いつでも手に取れるようにしておく。 ◇偉人の生き方や考え方をとらえ、友達と交流することを通して、偉人の生き方について考えようとしている。 【主体的に取り組む態度】（観察・記述）
3	○教科書に取り上げられている出来事について年表にまとめる。 ・五つのエピソードにまとめる。	○エピソードをわかりやすくまとめるために、年表の枠が書かれたワークシートを用意する。やなせたかしの人生だということをより実感できるように、何歳の時のエピソードなのかをワークシートに書くように伝える。
4	○五つのエピソードのうち、一つ目のエピソードについて比べ読みをする。 〈五つのエピソード〉 一、東日本大震災とやなせたかし 二、少年時代と徴兵、弟の死 三、本当の正義とは何か 四、信念が生み出したアンパンマン 五、本当のヒーローになるために ○残りのエピソードから自分が知りたいエピソードを一つ選び、教科書と伝記・自伝と比べ読みをして、ワークシートにまとめる。	○児童は初めて比べ読みを経験する。「同じエピソードでも、より詳細に書かれているものがあること」や、「やなせたかしの心情の書き方が違うこと」など、比べ読みをすることで、同じエピソードをより深く知ることができることを実感できるようにしていく。そのため、比較しやすいように、同じエピソードだけを切り取って、一枚のワークシートにまとめたものを用意する。 ○文章を読むことが苦手な児童もいるため、同じエピソードを探しやすいように、教科書と同じエピソードのページに付箋を貼っておく。 ◇日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。【知識・技能】（記述・発言）
5	○前時で選んだエピソードについて、教科書と伝記・自伝と比べ読みをする。	○伝記や自伝を読んで、「教科書に書かれていないこと」や「より詳しく書かれて

	・伝記、自伝を読んで、やなせたかしの人物像を考える。 ○調べたエピソードを読んで、やなせたかしはどんな人なのかを考えてワークシートに書く。	いること」を見つけて、ワークシートに書いていくことを伝える。一冊の伝記や自伝だけではなく、さらに文献を読むことができれば読んでもよいことを伝える。 一つのエピソードを調べたら、他のエピソードについて読んでもよいことを伝える。 ○読んだエピソードから、今の段階で、自分はやなせたかしをどんな人だと思うか考えるように助言する。 ◇文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 【思考・判断・表現】（記述・観察）
6 (本時)	○違うエピソードを選んだ人同士で、四人グループを組んで、エピソードの内容について交流する。 ・このエピソードから、「自分はやなせたかしのことをこんな人」だと考えていることを最後に伝える。 ○全てのエピソードを交流したうえで、グループとして「やなせたかしはこんな人」とまとめる。 ○全体で交流する。 ・やなせたかしの人生で、どんなエピソードがあったから、どんな人だと思ったのかを発表する。	○話すことが苦手な児童には、選んだエピソードの内容から一つを選ぶように助言する。 ○話し合いの時間を確保するため、友達の発表内容をワークシートに書く場合は、必要だと思われる事柄を簡潔に書くよう声をかける。 ○やなせたかしの人物像が明確になるよう、自分で調べたことだけではなく、やなせたかしの人生を知った上で、どんな人なのかをまとめるよう助言する。 ◇文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 【思考・判断・表現】（記述、発言）
7	○選んだ偉人について伝記や自伝を読む。	○他の偉人の本をすでに手に取っている児童もいるが、読むことができていない児童もいると考えるため、この時間でじっくりと本を読む時間を取る。並行読書ができるように、教室に伝記や自伝を置く。 ◇日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気

		付くことができる。 【知識・技能】（観察）
8	○他の偉人のエピソードをワークシートにまとめる。	○「一冊の本から一人の偉人を調べる」「一人の偉人について複数の文献を読む」「複数の偉人を調べる」など、いろいろな読み方で偉人の生き方や考え方をまとめていくことを伝える。簡潔にメモをとることが苦手な児童が多いため、情報を整理しやすいように付箋を用意する。選んだ偉人がどんな人か次時で伝えられるように、叙述に基づいた内容を簡潔に付箋に書くように声をかける。どのような出来事や行動から、「選んだ偉人はどのような人物なのか」「どのような生き方をしたのか」がわかるのかを書くよう助言する。伝記や自伝の目次や見出しを手がかりに必要なところを探して読む。 ◇日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関心することになっている。 【知識・技能】（記述・観察）
9	○グループで交流する。 ・いいなと思った偉人の考えや、生き方を簡潔にメモを取りながら交流する。	○考えを広げてほしいため、違う偉人を選んだ人、交流が得意・苦手を考慮して、教師が意図的にグループを作る。 ◇日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関心することになっている。 【知識・技能】（記述・発言）
10	○様々な偉人のエピソード、考え方や生き方を知って、自分は「こういう人になりたい。」「こういう風に生きていきたい。」と思ったことをワークシートに書く。 ○単元の振り返りをする。	○自分で調べたことや、友達との交流を通して考えたことをもとに、自分の生き方について考えていくように伝える。 ◇偉人の生き方や考え方をとらえ、友達と交流することを通して、自分の生き方について考えようとしている。 【主体的に取り組む態度】（記述・観察）

6 本時の指導 (6/10 時間)

(1) 本時の目標

文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。

【思考力、判断力、表現力等C(1)カ】

(2) 本時の展開

主な学習内容と活動	○指導や支援の手立て(◇評価)
1 本時の学習のめあてを確認する。	○やなせたかしが「どのような人物か」「どのような生き方をしたのか」を話し合う、という視点を確認する。 ・「このエピソードから、こんな人だと思う」ということを伝え合うことを確認する。
やなせたかしがどのような人物なのかをグループで考えよう	
2 違うエピソードを選んだ人同士でグループを組んで、エピソードの内容について交流する。このエピソードから、「自分はやなせたかしのことをこんな人」だと考えていることを最後に伝える。 「私は、東日本大震災の場面について調べたよ。やなせたかしは、高齢で体調も悪いから引退を考えていたけど、アンパンマンのマーチがみんなを励ましていることを知って、『引退をやめてアンパンマンと一緒にみんなを助けるんだ』と決心したんだって。このことから、やなせたかしは『どんな時でも困っている人を助けようとする心優しい人』だと思いました。」	○話すことが苦手な児童には、選んだエピソードの内容から一つを選ぶように助言する。 ○一つ目のエピソードは、全体で比べ読みをしているので、残りの四つのエピソードを交流できるよう、四人グループで交流させる。 グループ編成は、 ・話すことが得意な児童同士のグループ ・話すことが苦手な児童同士のグループ になるように教師が意図的に作った四グループで交流させる。 ○話し合いの時間を確保するため、友達の発表内容をワークシートに書く場合は、必要だと思われる事柄を簡潔に書くよう声をかける。
3 全体で交流する。 ・グループで「やなせたかしはこんな人」を考えて発表する。 「困っている人を助ける優しい人」 「どんな状況でも、人のためにつくす勇気のある人」	○やなせたかしが「どのような人物か」「どのような生き方をしたのか」を考えてまとめる。
4 学習の振り返りをする。 「教科書より詳しくエピソードを知ることができた。」 「優しい人だと思ったけど、勇気もある人だと思った。」	◇文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 【思考・判断・表現】(記述、発言)

7 板書計画

【交流して思ったこと】 ・教科書より詳しくエピソードを知ることができた。 ・優しい人だと思ったけど、勇気もある人だと思った。	1 グループ 2 グループ 3 グループ 4 グループ 5 グループ 【やなせたかしはこんな人】	【話すとき】 ①それぞれのエピソードを伝える。 ②そのエピソードから、自分はやなせたかしがどのような人物だと思うかを伝える。 【聞くとき】 ・エピソードや友達の考えを簡単にメモをとる。	やなせたかしがどのような人物なのかをグループで考えよう。
--	--	--	-------------------------------------